



2024年6月3日

各位

会社名 **ネツレン**  
高周波熱錬株式会社  
代表者名 代表取締役社長執行役員 大宮 克己  
(コード番号 5976 東証プライム市場)  
問合せ先 執行役員経営企画室長 久田 直志  
(TEL. 03-3443-5441)

## 設備投資（金属3Dプリンター本格稼働）に関するお知らせ

当社は、2022年5月17日付「3Dプリンター導入に関するお知らせ」にてプレスリリースしましたとおり、3Dプリンターを導入いたしました。このたび、2024年度より本格稼働を開始いたしましたので、お知らせいたします。

### 記

#### 1. 本格稼働について

当社は、2024年5月9日付適時開示「ネツレングループ中期経営計画策定に関するお知らせ」のとおり、現在、長期経営ビジョン「NETUREN VISION 2030」を推進中であり、第2フェーズとして第16次中期経営計画（以下、第16次中計といいます。）を策定し、本年度より開始しております。また、第16次中計では、企業価値向上を目指して、①技術開発：成長ドライバーの創成、②事業：成長エンジンの育成、③グローバル：グローバルマーケットの拡大、④人財：自発的貢献意欲のある人財の育成、という4つの基本戦略を立ち上げています。

#### 2. 金属3Dプリンターによる純銅製誘導加熱コイルの製造開始

当社のIH（誘導加熱）熱処理では、電気伝導率が良く、加熱効率の高い純銅製の誘導加熱コイルが重要となります。その形状は金属部品に合わせて熟練技術者が手作業で製作していることから、製造能力には一定の制限がありました。

この課題を解決するため、誘導加熱コイルの製造工程において、純銅で造形可能なグリーンレーザーを利用した金属3Dプリンターを業界で初めて導入いたしました。これにより、①迅速な製造、②今までの加工方法では不可能だった形状の造形、③後工程の簡略化などが可能となります。

さらに、当社のCAE解析技術※と連携させることで、より高性能な誘導加熱コイルが製造可能となるほか、手作業では接合が必要だった部分を一体で造形することにより長寿命化も見込めるなど、高いシナジー効果も期待できます。

金属3Dプリンターによる誘導加熱コイルは、現在社内で使用する誘導加熱コイルで展開をかけており、その評価を行ったうえで、2025年度には外販を含め200台、2027年度には400台とする計画です。ま

た、従来と比較して熱処理技術開発のリードタイムを2025年には30%短縮し、さらにCAE解析との相乗効果で誘導加熱コイル設計製造技術の最適化を図り、2030年には熱処理技術開発のリードタイム60%短縮を目指します。

今後、金属3Dプリンターで製造した純銅製誘導加熱コイルの開発・量産を進め、お客様により満足いただける高品質な誘導加熱コイルをスピーディーにご提供してまいります。

※CAE解析技術：コンピューターによる設計・製造や技術的課題の事前検討といったエンジニアリングの総称。ここでは、高周波熱処理解析（温度、金属組織、応力/変形量など）や熱流体解析（冷却剤噴射状況など）、構造解析（誘導加熱コイルの応力/変形量など）を含めたシミュレーションを指す。



金属3Dプリンターによる純銅製誘導加熱コイルの一例

### 3. 業績への影響

本設備の本格稼働に伴う、2025年3月期連結業績に与える影響は軽微であります。

以上